

第5回 高知県立歴史民俗資料館資料収集方針・収蔵のあり方検討会  
議事概要（概要版）

日時：令和7年3月18日（火）

場所：高知県立歴史民俗資料館 多目的ホール

1. 開会（14時）

2. 池上文化生活部長 挨拶

3. 議事

（1）事務局からの説明

（2）意見交換（主な意見等）

①報告書案について

（林委員）

歴民館の資料のうち、館外の方、あるいは職員も収蔵場所等が把握できていない、つまり、活用するための条件が整っていない資料があるのではないか。

（金山委員）

収蔵庫等の増設の検討にあたっては、既存県有施設等の活用を含めて、最も効果的な方法を比較検討してほしい。

（松島委員）

本検討会の開催後も資料受入を行っているか。

（事務局）

資料の保存の緊急性、資料の貴重性を含めて収集委員会に諮り、歴民館として保管活用すべきとされた資料は預かりや寄贈の受入をした。

（松島委員）

歴民館にて教育普及活動として、どのような事業を実施しているか。

（歴民館）

学校教育現場等と連携して、出張体験学習、出前授業、インターンシップ、大学生に対する博物館実習に取り組んでいる。また、地域団体や研究会等へ学芸員を講師として派遣している。

「サマーミュージアム」等各種行事についても教育普及として捉えて実施している。

(松島委員)

将来にわたって、館の役割を果たすことができるよう「収蔵庫」の増設を検討してほしい。

(事務局)

既存県有施設等も含めて幅広の活用をしていく中で、当面の収蔵庫の逼迫している課題について解決していくことも一つの方策と考えている。

現在、旧大柝高校を活用する中で、民具等大型資料について、館外での管理という実態に即していかないと収蔵庫問題が解決しないのではないかと受け止めている。

## ②今後について

(金山委員)

本検討会で検討した収蔵庫問題はすぐに解決できるものではない。

寄託品の再評価や未登録資料のデータベース化等喫緊の課題であり、それと併せて各種ルール整備をしていかなければならない。そして、このルールの中で過去に集めた資料のうち、新しく収集方針と照らし合わせて、収蔵の必要性がないと判断された資料を整理しなければならない。

収蔵庫の増設について、今の地方財政の厳しい状況の中で単独で収蔵庫を建造することは難しい。そのため、旧大柝高校を整備して、空間を有効活用することも考えていかなければならない。

(林委員)

収蔵スペースの増設は不可欠と考えているが、それが困難、あるいは随分先のことになるという場合、学芸活動を停止させないために、本来収蔵のためのスペースとして造られたわけではない施設を使用することもやむを得ない。

また、予算を獲得するために県民の支持等がないと実現しない。